

国語科学習指導案

日時 平成24年10月10日(水) 4校時
会場 1年A組教室(校舎3階)
生徒 1年A組(男14名 女10名 計24名)
授業者 鹿糠 恵子

1 単元名 「少年の日の思い出」を朗読しよう 教材名 「少年の日の思い出」

2 単元について

(1) 教材観

- ・本作品は現在と回想の二つの部分から構成されており、「わたし」のもとを訪れた客が少年の日の思い出を語りだすという形で描かれている。少年時代の回想が中心となるが、前半部分にあたる現在の場面には、後半につながる伏線が織り込まれている。それによって、過去の思い出に対する「わたし」のつらさや重みがより伝わるという効果をもたらしている。伏線や暗示的な表現などにも着目することで、より深い読みの力を育て、場面の展開を意識して朗読しようとする意欲にもつなげていきたい。
- ・後半で描かれている、「僕」のちょうに対する熱情、盗み、謝罪などの各場面における細かい心情表現については、時間の流れに沿って読み取っていくことで、少年の高揚感や心理状態などを捉えることができる。また、この場面の読みから最後の場面でチョウを粉々に押しつぶしてしまうことの意味に迫り、考えさせていきたい。
- ・生徒が朗読をするために内容を読み進めることで、登場人物の行動や心情に深く入り込みながら、細部に渡る情景描写や構成などの表現の工夫にも気づくことのできる、優れた教材であると考え。

(2) 生徒観

- ・本単元は中学校一年で学習する三つめの文学作品となる。「遠い山脈」では、登場人物の行動や態度などを描いた表現を手がかりに、その心情を考えながら読むことを中心に学習した。次の「さんちき」は、二人の登場人物が大工の親方と弟子として特徴的に描かれている作品であったため、それぞれの人物像をさぐる学習を通して、職人としての考え方も触れながら読みを進めた。人物像をまとめる言語活動では、人柄を表す語彙が少なく、自分の言葉に置き換えたり、端的にまとめたりできる生徒は少なかった。
- ・生徒は文学的な作品の学習において、会話や行動が読みの手がかりとなることを、小学校で学んできており、ほとんどの生徒が会話や心情を直接表わす描写などには着目することができている。
- ・行動からその心理をさぐったり、人物像を思い描いたりできる生徒は限られており、直接的な表現を手掛かりに文章を読もうとする傾向が強い。

(3) 指導観

- ・中心となる指導事項は、学習指導要領の「読むことウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」「読むことオ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」とする。
- ・「朗読する」ために必要な内容の読み取りを、行動や心情、情景描写を視点に進めていきたい。生徒にはまず一つの表現を手がかりに、前後する別の表現を見つけることで、そのつながりや心情の変化を捉えさせたいと考えている。また、場面の展開や作品の構成を意識させることで、個々の読みを深めていくようにさせたい。

(4) 研究とのかかわり

- ・本時ゴールを明確にする課題設定<導入>
本時は、前時に個人で考えた朗読シートをもとに同一場面を読んでいるグループで交流し合い、発表会へ向けた自分の朗読原稿をまとめることを確認する

- ・言語活動を充実させた活動による課題解決<展開>
文章中のどの部分に着目し、どのように考えたのかを書き込んだ個人の朗読シートをもとに交流させる。同じ描写についての意見の相違については話し合ったり、疑問点を聞き合ったりできるように話し合いを進めさせたい。全体交流では各場面の朗読ポイントがわかるように発表させ、その後、交流を通して再確認した点や新たに考えたことなどを書き加えた自分の発表用朗読原稿を作らせる。
- ・集団の学びを個に返すまとめと評価<終末>
学習を振り返り、本時の学習でわかったことや学んだこと、次時や今後に生かしたい点などについて書かせるようにしたい。

3 指導と評価の計画

1 年 国 語		単元 (題材) 名	「少年の日の思い出」	総時間	6 時間扱い
学習指導要領の指導事項			単元目標		
(読むことウ) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。		○文章の内容に関心を持ち、内容が伝わるように朗読しようとしている。			
(読むことオ) 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。		○場面の展開や登場人物の行動や心情、情景描写などに着目して読み、内容の理解を深めることができる。			
		○文章に表れている語り手の言葉、登場人物の言動、情景の描き方などを捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。			
国語に関する 関心・意欲・態度		読む能力		言語事項	
・文章中の表現に着目し、内容が伝わるように工夫して朗読しようとしている。		・文章を朗読するために、登場人物の行動や心情、情景描写などに着目して読み、内容の理解を深めている。 ・文章中に表れている語り手の表現、登場人物の言動などを捉え、自分の見方や考え方を広げ、朗読の仕方を考えている。		・語句の意味を文脈上から捉え、その役割や効果を考えながら読んでいる。	
時間	主な学習活動 ／評価規準	国語に関する 関心・意欲・態度	読む能力	言語事項	
1	・単元の見通しをもち、学習計画を確認する。 ・全文を通読し、展開と登場人物をとらえる。	・文章の内容や表現に関心を持ち、読もうとしている。 【観察・シート】			
2	・各場面の構成や表現の特徴をとらえ、朗読する場面を決める。 ・読みの視点と朗読の工夫を確認する。		・朗読するための読みに必要な視点として、登場人物の行動や心情、情景描写などがあることを理解している。 【観察・シート】	・語句の意味を文脈上から捉え、その役割や効果を考えている。 【観察・シート】	
3	・読みの視点に沿って、第1の場面を読む。 ・自分の選んだ場面の読み取りをする。	・登場人物の行動や心情に着目して、工夫して朗読しようとしている。 【観察・シート】	・登場人物の行動や心情、情景描写に着目しながら読み、朗読の工夫と理由を、書いている。 【観察・シート】		
4	・朗読の工夫を交流し、発表会に向けた自分の朗読原稿を作る。 【本時】		・場面の展開や登場人物の行動や心情、情景描写などに着目して読み、内容の理解を深めている。 【観察・シート】	・語句の文脈上の意味や効果などの捉え方を広げ、朗読の工夫に役立てている。 【シート】	
5 6	・朗読発表会を行う。 ・朗読発表会を通してわかったことや考えたことをまとめる。	・文章の内容が分かるように、工夫を意識して朗読しようとしている。 【観察】	・朗読交流会を通して、内容の解釈を広げたり、自分の考えを再確認したりしながら作品を読んでいる。 【シート】		

4 本時の目標

- ・場面の展開や登場人物の行動や心情、情景描写などに着目して読み、内容の理解を深めている。

5 本時の展開

【既習の学習】 ・1学期は、「遠い山脈」「さんちき」で場面の様子や人物像について考えながら作品を読んでいる。				
【前時の学習】 ・登場人物の行動や心情、情景描写に着目しながら、自分の選んだ場面の朗読の工夫を考えている。				
躰	学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
導 入 5 分	1 前時の学習を振り返る。	○前時に個人で考えた工夫を取り入れて朗読する。 ○どのような視点で読みの工夫を考えたのか発表する。	○前時に考えた朗読工夫シートを使って、家庭で朗読練習をさせておく。 ○会話、心情、行動などの視点から読み取ったことが朗読の工夫の根拠になっていることをおさえる。	
	お互いの工夫を交流し合い、朗読を極めよう			
展 開 4 0 分	2 学習課題を把握する。	○交流後に、発表会用のまとめの朗読原稿を作成を確認する。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【観点：読むこと】 ・登場人物の心情や行動、情景描写に着目しながら読み、内容の理解を深めている。 </div> (評価方法 観察・シート) A：作品全体や場面のつながりなどの視点から文章を捉え、自分の見方や考えを広げている。
	3 課題を追究する。 ・グループ交流	○交流の手順を確認する。 ○同じ場面を選んだ同士で、意見を交流し合う。	○グループから全体の交流に移ることと、それぞれの目的を確認する。 ○後半部分を6場面に分け、同じ場面を選んでいる4名で意見交流を行う。 ・文章中のどの部分を根拠としたのかを明らかにしながら説明させる。(意見交流の手引き) ・交流を通して、気付いた点や参考になった解釈などをメモさせておく。(学習シートの工夫) ・各場面における朗読のポイントが分かりやすいように画用紙に書かせておく。	
	・全体交流	○各場面の交流で出された朗読のポイントを発表し、結末までの展開を考える。	○全体交流では、作品前半から結末までを通して発表させ、場面ごとのつながりを考えた視点で、意見が出せるようにしたい。 ・作品全体や場面の展開に、工夫の根拠を求めている生徒がいれば、事前におさえておく。	
	4 自分の考えを再構築する。	○発表会用の朗読最終原稿を作る。	○再構築の手がかりとなるよう、出された意見が残るような板書を工夫する。	
終 末 5 分	5 学習を振り返る。	○学習の振り返りをする。	○本時の学習でわかったことや学んだこと、今後に生かしたい点などについて書かせ、発表させる。	
【次時や別単元での学習】・次時の朗読発表会のために、家庭学習で朗読練習をする。				